

村と成之 むらかみ しげゆき 歌人、俳人。慶應二年九月二十七日尾張國東春村井郡印場村生れ、大正十二年十一月二十日歿（八六一—九二四）。舊姓淺見、幼名甚三郎。號しみむろ、蛸魚、蟬室。初の石橋蕪窓の國學、松井淡水の漢學、吉原醉雨の俳諧を學ぶ。明治二十九年新居學校授業生、十一月近衛歩兵第二聯隊に入營。營中勤務の傍ら國語傳習所で、小中村清矩、木活豐穎、落合直文等と就き修學。二十五年村上氏珪に入夫。また蕪窓の和歌を學び、二十五年までの歌稿「紅葉草」三卷二千二百餘首がある。二十八年從軍して臺灣に轉戦、凱旋解隊後マラリヤを病む。三十年國語傳習所高等科卒業。その後枋木、千葉、群馬、愛知等で教職。三十五年内藤鳴雪門に入りて句作を始め、正岡子規の流れを學ぶ。のち村上鬼城を知り、句會紫苑會を興した。晩年までの句稿「夜雨寒蛩」五冊を残す。翌三十六年からは「日本新聞」、歌誌「馬酔木」の歌を授じ始め、歌稿「蟬室歌草」、 「橋の下草」、 「杉乃實集」の二千七百餘を遺した。

歿後、歌集「翠微」は屋文明編、大正十四年九月十八日古今書院「アララギ叢書」で刊行（岡麓、島木赤彦、齋藤茂吉序文）。

